

第3章 単元計画の作成 【学習指導要領解説P70～75】

第1節 単元計画の基本的な考え方

単元とは、児童の学習過程における学習活動の一連の「まとまり」という意味である。単元計画の作成とは、教師が意図やねらいをもって、このまとまりを適切に生み出そうとする作業に他ならない。単元づくりは、教師の自律的で創造的な営みである。学校としてすでに十分な実践経験が蓄積され、毎年実施する価値のある単元計画が存在する場合でも、改めて目の前の児童の実態に即して、単元づくりを行う必要がある。

単元計画の作成は、大きく次の2つに分けることができる。まずはじめに単元を構想する。次に単元の計画を具体的に書き表す。実際には、2つの作業を行きつ戻りつして望ましい単元計画を作成していくことが大切である。

1. 単元計画作成の手順

単元計画の作成にあたっては、次ページ「単元計画作成の手順チャート」にそって、以下の①から⑦の手順が考えられる。

① 全体計画・年間指導計画を踏まえる

単元計画を作成するにあたっては、その前提として、学校の全体計画・年間指導計画を踏まえる必要がある。

② 3つの視点から、中心となる活動を思い描く

単元構想の出発点として、「児童の興味・関心」「教師の願い」「教材の特性」の3つの視点が考えられる。どの視点から構想を始めても、他の2つの視点についても十分に思いを巡らせることが大切である。

③ 児童の興味・関心

児童の実態や興味・関心を出発点とすることで、児童の主体的な活動が保障できる。

④ 教師の願い

教師の願いを出発点とすることで、どんな内容について学ばせたいのか、どんな資質や能力及び態度を身に付けさせたいのかを明確にした単元構想が可能となる。

⑤ 教材の特性

教材（学習材）とは、児童の学習を動機付け、方向付け、支える学習の素材のことである。

教材の特性を出発点とすることで、どのような問題解決や探究活動を行うことができるか、明確に見通すことができる。その際、横断的・総合的な学習になるように意識することが求められる。

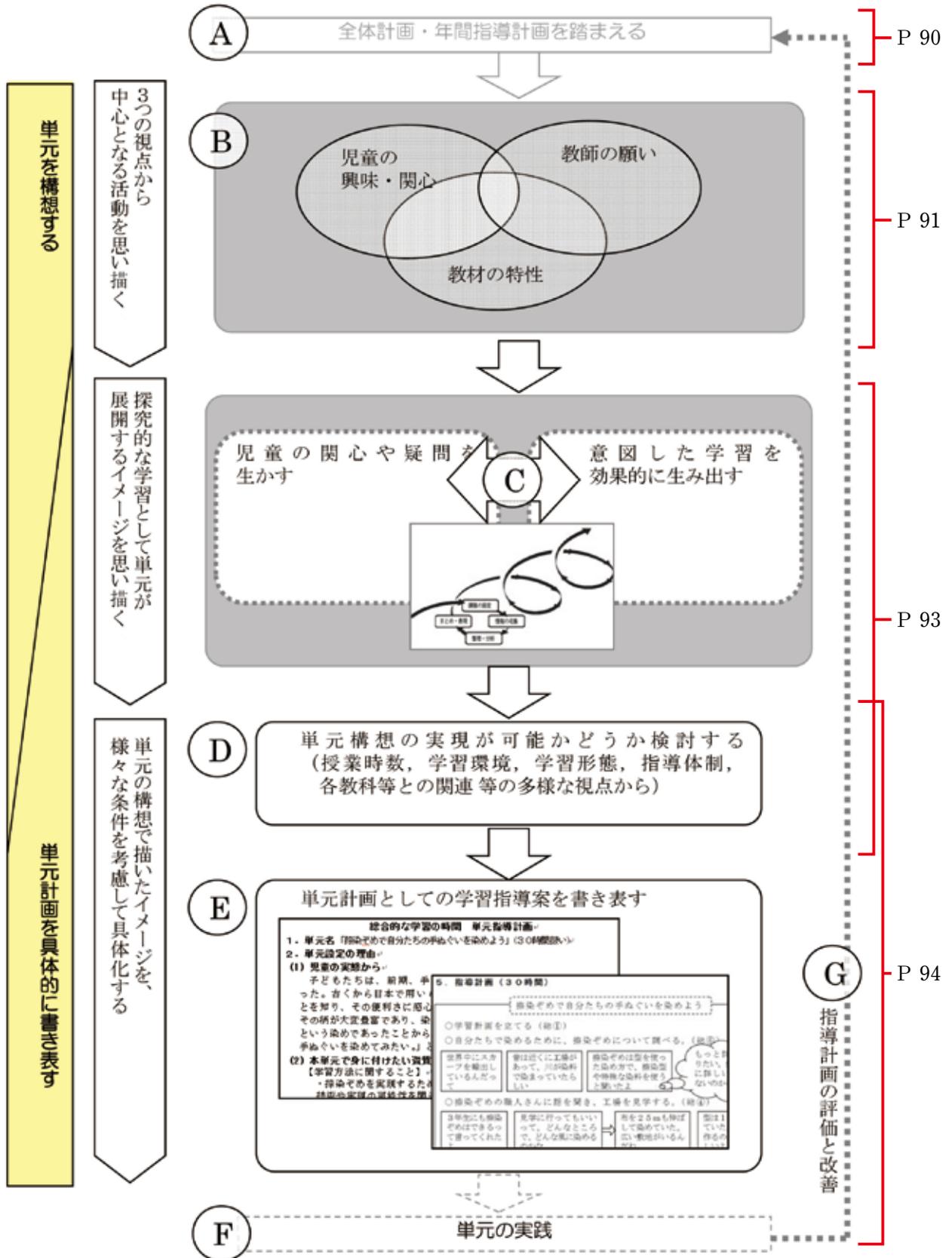


図 単元計画作成の手順チャート

③ 探究的な学習として単元が展開するイメージを思い描く

④ 思い描いた中心的な活動を、児童主体の価値ある探究的な学習にするためには、次の二つのポイントがある。

① 児童による主体的で粘り強い問題の解決や探究活動を生み出すには、児童の関心や疑問を重視し、適切に取り扱うこと。

② 問題の解決や探究活動の展開において、教師が意図した学習を効果的に生み出していくこと。

児童が主体的に進める活動の展開においては、教師が意図した内容を児童が自ら学んでいくように単元を構成する点に難しさがある。そこでまず、その関心や疑問から、児童はどのような活動を求め、展開していきだろうかと考える。そして、活動の展開において出会う様々な問題場面と、その解決を目指して児童が行う問題の解決や探究活動の様相、さらにそれぞれの学習活動を通して児童が学ぶであろう事項について、考えられる可能性をできるだけ多面的、網羅的に予測する。もちろんその際には、各学校で定めた内容、育てたい資質や能力及び態度との照らし合わせを行う。

⑤ 単元構想の実現が可能かどうか検討する

まず、単元を構成する諸活動を考えた後に、各活動が児童の意識や活動の自然な流れに沿って展開できるかを検討する。流れに不自然さや無理がある場合には、順番を入れ替えたり、活動の間に別の活動を挟んだり省略したりすることで、単元構想の実現可能性をより高めることができる。さらに、各活動の授業時数、学習環境、学習形態、指導体制、各教科等との関連等の多様な視点から、単元構想が実際に実現可能かどうかを吟味する。

⑥ 単元計画としての学習指導案を書き表す

単元の計画を具体的に表現するには、以下のような構成要素が考えられる。

- | | |
|-------------------|-------------|
| ○単元名 | ○地域や学校の特徴 |
| ○単元目標 | ○社会の要請 |
| ○児童の実態 | ○学校研究課題との関連 |
| ○育てようとする資質や能力及び態度 | ○各教科等との関連 |
| ○学習課題、学習対象、学習事項 | ○単元の評価規準 |
| ○教材について | ○指導計画・評価計画 |
| ○教師の願い | など |

⑦ 単元の実践

どれだけ丁寧に単元づくりを行っても、児童の活動は教師の想定通りにはならない場合もある。その際には、計画通りに実行するのではなく、児童の動きに応じて柔軟に修正しつつ学びを生みだそうとする、教師の構えが重要になってくる。

⑧ 指導計画の評価と改善

単元の実践を振り返り、単元計画を見直すとともに、次年度の全体計画や年間指導計画の改善に役立てることが必要である。

2. 単元計画としての学習指導案

単元計画を書き表す上での基本的なイメージは、次の図1ようになる。ここでは、単元計画の構成要素（単元計画に記される基本的な内容）について示し、その具体例については第2節において示す。

平成〇〇年度 〇〇小学校 総合的な学習の時間 第〇学年（〇学〇組）単元計画														
<p>1 単元名</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 5px 0;"> <p>総合的な学習の時間において、どのような横断的・総合的な学習や探究的な学習が展開されるかを一言で端的に表現したものが単元名である。総合的な学習の時間の単元名については、① 児童の学習の姿が具体的にイメージできる単元名にすること、② 学習の高まりや目的が示唆できるようにすることに配慮することが大切である。</p> </div>														
<p>2 単元設定の理由</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 5px 0;"> <p>なぜこの単元を計画したかについて、様々な要素からその設定理由を述べる。要素としては、①児童の実態、② 育てようとする資質や能力及び態度、③内容について（教材について）、④教師の願い、⑤地域や学校の特色、⑥ 社会の要請、⑦学校研究課題との関連、⑧ 各教科等との関連等が挙げられる。</p> </div>														
<p>3 単元目標</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 5px 0;"> <p>どのような学習を通して、児童にどのような内容を学ばせ、どのような資質や能力及び態度を育成するのかを明確に示したものが単元目標である。各学校の目標や内容、育てようとする資質や能力及び態度を視野に入れ、中核となる学習活動をもとに構成することが考えられる。なお、目標の標記については、一文で示す場合、箇条書きにする場合などが考えられる。</p> </div>														
<p>4 単元の評価規準</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <tr> <td style="width: 20%; padding: 5px;">評価の観点</td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%;"></td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">評価規準</td> <td colspan="4" style="text-align: center; padding: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>評価の観点を設定する際には、①総合的な学習の時間の目標を踏まえた観点②育てようとする資質や能力及び態度を踏まえた観点③教科との関連を明確にした観点などが考えられる。</p> </div> </td> </tr> </table>			評価の観点					評価規準	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>評価の観点を設定する際には、①総合的な学習の時間の目標を踏まえた観点②育てようとする資質や能力及び態度を踏まえた観点③教科との関連を明確にした観点などが考えられる。</p> </div>					
評価の観点														
評価規準	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>評価の観点を設定する際には、①総合的な学習の時間の目標を踏まえた観点②育てようとする資質や能力及び態度を踏まえた観点③教科との関連を明確にした観点などが考えられる。</p> </div>													
<p>5 指導計画（〇時間）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%; padding: 5px;">学習過程 （時間数）</th> <th style="width: 40%; padding: 5px;">活動内容</th> <th style="width: 45%; padding: 5px;">指導のポイント・関連する教科等 など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center; padding: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>活動内容や時間数、学習環境をより具体的に記述するとともに、それぞれの活動における指導のポイントや関連する教科等の学習内容、評価の規準等についても示すことが求められる。</p> </div> </td> </tr> <tr> <td style="height: 20px;"></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			学習過程 （時間数）	活動内容	指導のポイント・関連する教科等 など				<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>活動内容や時間数、学習環境をより具体的に記述するとともに、それぞれの活動における指導のポイントや関連する教科等の学習内容、評価の規準等についても示すことが求められる。</p> </div>					
学習過程 （時間数）	活動内容	指導のポイント・関連する教科等 など												
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>活動内容や時間数、学習環境をより具体的に記述するとともに、それぞれの活動における指導のポイントや関連する教科等の学習内容、評価の規準等についても示すことが求められる。</p> </div>														

図1 単元計画の基本的な構成要素

第2節 単元計画作成の具体的手順

前節の考え方に沿って、単元計画を作成した事例を示す。

単元名 「^{なっせん}捺染ぞめで自分たちの手ぬぐいを染めよう」(第5学年 50 時間扱い)

《 単元の概要 》

型染め的一种である「捺染ぞめ」という地域の伝統文化について、専門家から染めの技術を学び、自分で染める活動を通して、地域に残る伝統の良さや、それらを守る人々の思いを感じ、自分が住む地域に対する親しみと愛着を高める単元である。



1. 全体計画・年間指導計画を踏まえる

■全体計画との関連

P87 に示した図「単元計画作成の手順チャート」のA

本単元で主に育てようとする
資質や能力及び態度

他者や社会	<ul style="list-style-type: none"> 他者の願いと自分の願いの双方が実現するように考えたり、他者と協力して課題を解決したりする。 課題の解決に向けて地域の活動に参加する
-------	--

＜目標＞

- 身近な地域の自然や社会（ひと・もの・こと）にかわり、課題を見つけ、仲間と協力して、主体的・創造的・協同的に課題を解決し、新たな課題に向かって探究する力を育てる。
- 地域の様々な人とのかわりを通して、地域に対する親しみと愛着を高め、自分の生き方を考えることができる。

本単元で扱う内容

伝統・文化	<p>【学習対象】 地域の伝統や、継承や発展に取り組む人々</p> <p>【学習事項】 ・地域の伝統や文化のもつ特徴を知り、地域の一員として守り、受け継ぐためのあり方を考える。 ・先人の知恵や伝統の意味に気づき、それを大切にしようとする</p>
-------	--

■年間指導計画との関連

月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3			
総合的な学習の時間	米づくり 20h ・米づくりを行うことで食料生産について考える。		捺染ぞめで自分たちの手ぬぐいを染めよう 50h <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <tr> <td>捺染ぞめに出会おう 15h</td> <td>捺染ぞめの職人をさがそう 20h</td> <td>捺染ぞめを伝えよう 15h</td> </tr> </table>									捺染ぞめに出会おう 15h	捺染ぞめの職人をさがそう 20h	捺染ぞめを伝えよう 15h
捺染ぞめに出会おう 15h	捺染ぞめの職人をさがそう 20h	捺染ぞめを伝えよう 15h												

2. 3つの視点から児童の姿を思い描く

この事例では、これまでの総合的な学習の時間を振り返り、児童が地域のことに興味・関心をもったことから、地域とのかかわりを深め、地域の人といっしょに体験できる活動を中心にした単元を構想した。

(1) 児童の興味・関心

米づくりを通して、児童が体験活動や地域の人々とかかわる楽しさを感じていることを大切に、単元を構想した。

農家の人といっしょにやった田植えがおもしろかったな。もっと地域の人と知り合いたい！



今までも体験があって、とっても楽しかったから、今度も楽しいことをいっぱい体験したい！



地域へ出て行って、いろんなものを調べたり、つくったりしてみたいな！



児童は、地域の人々と一緒に活動したり、教えてもらったりすることを、予想以上に楽しんでいたな！それじゃあ、地域の人々とかかわれるような単元を考えよう。

(2) 教師の願い

次に、どのような力を育てたいのか、どのような内容を学んでほしいのかについて、全体計画をもとに考え、中心となる学習活動を具体的に思い描いた。



担任A

児童は地域に興味をもっているから、それを生かしてこれまで扱ったことが無い「伝統・文化」に目を向ける単元をつくれなから。



学年主任

全体計画には、内容に「先人の知恵や伝統の意味に気付き、それを大切にしようとする」とあるから、「伝統・文化」に目を向ける単元は、いいと思います。



担任B

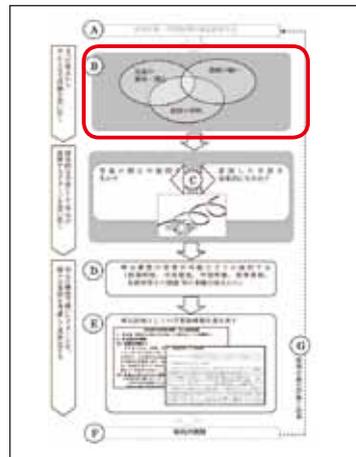
それなら、地域に残っているけどあまり知られていない「捺染ぞめ」を扱うのはどうでしょう？これなら児童が調べる余地が多くありますよ。



学年主任

捺染ぞめなら、育てたい資質・能力・態度にある「他者の願いと自分の願いの双方が実現するように考えたり、他者と協力して課題を解決したりしようとする」ことにつながりますね。

P87に示した図「単元計画作成の手順チャート」のB



児童のこれまでの学習や、興味・関心の実態を把握する

前単元までに高まった児童の興味・関心を、感想や活動の様子、振り返り等から把握する。

どんな資質・能力・態度を育てたいのか？

全体計画を踏まえて、どのような内容を通して資質や能力及び態度を育てたいのか、具体的に考える。

授業のイメージを学年で共有する

大まかな指導のイメージを学年会等で話し合い、共有しておくことで、ポイントを押さえた単元計画につなげる。

(3) 教材の特性

次に、捺染ぞめという教材の価値を分析した。捺染ぞめを扱うことによって学ぶ内容や価値ある体験が可能であるかなど、教材の特性を明らかにした。



担任 A

捺染ぞめは、「伝統・文化」の学習には大変良い教材だと思っています。世界的にも高い技術なのに、地域ではあまり知られていないし、工場も減ってきています。自分たちの地域の良さだけでなく、問題点に明確に迫れる教材ではないかと思っています。



学年主任

以前は、学校の裏の川が、染料で毎日違う色に染まったと言いますから、地域に密着していたようですね。今は工場も減って、あまり知られていない捺染ぞめを、自分に引き寄せて考える、つまり、自分ごとにするのが大切だと思いますが、どのような方法を考えていますか？



担任 A

捺染ぞめにかかわる人との出会いが大切だと思います。職人さんや型作りをする人がいましたので、児童の求めが高まったら出会いの場を考えるつもりです。染めの体験も、自分に引き寄せることにつながると思います。ただ、教材が捺染ぞめで本当の良いのか、まだ不安もあります。



学年主任

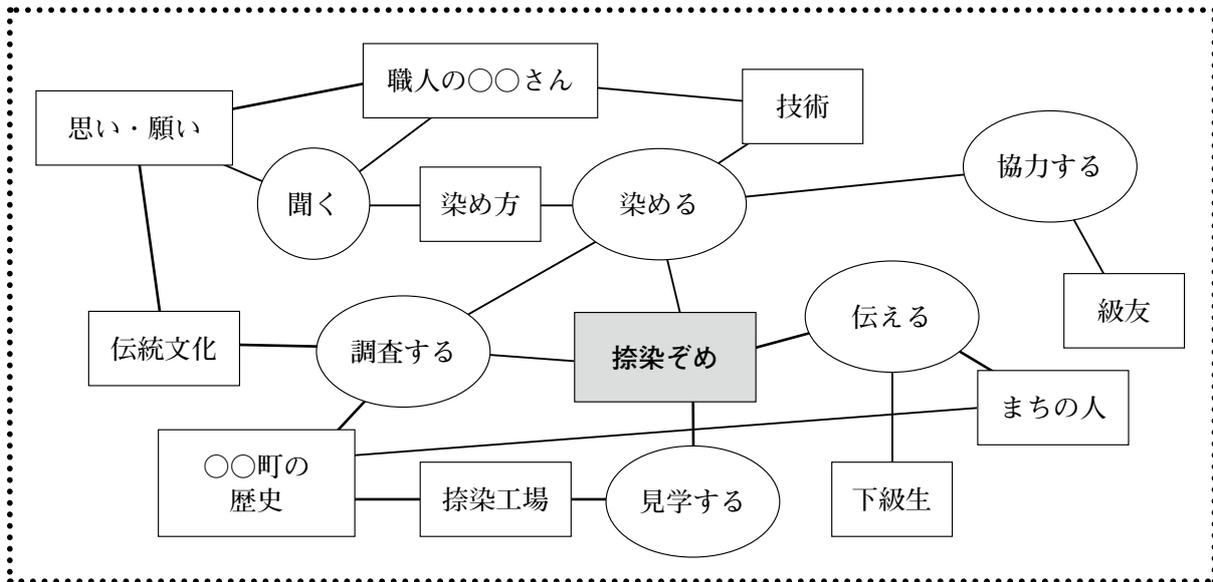
全体計画を見たり、「捺染ぞめ」が教材としてふさわしいか、ウェビングをしたりするといいですよ。

教材と出会う姿を思い描く

児童が、地域の人々とのかかわりを深め合う姿を思い描くことで、単元の中心的な活動を明確にする。

教材がふさわしいかをウェビングで確かめる

中心の材を「捺染ぞめ」としたとき、教材としての広がりがあるか、どのような対象が考えられるか、どのような活動が考えられるかを予測する。



3. 探究的な学習として単元が展開するイメージを思い描く

これまでに考えた単元構想を具体化する際に、学習過程が探究的になるよう、単元の計画を考えた。

「捺染ぞめに出会おう」

課題の設定では

- 田植えの時に、捺染ぞめの手ぬぐいを使っていたから、それを紹介してみよう。
- 捺染ぞめの手ぬぐいを売っているお店に行ったり、つくっている職人さんに会いに行ったりしてみよう。そこで見つけたことを話し合っって課題をつくろう。
- 捺染ぞめを自分でやるために、どんなことを調べていけばよいか、考えさせよう。

情報の収集では

- 「手ぬぐいを染める」ために必要な情報を収集する過程で、「染めの特徴」も明らかになるはず。
- 地域に残る伝統技術だということを実感的にとらえるために、地域の方や保護者の方に直接聞くことを大切にしよう。生きた情報がきっと出てくるだろう。
- 調べた範囲で試しに染めてみよう。職人さんの作品と比べてみて、違いを整理させよう。

整理・分析では

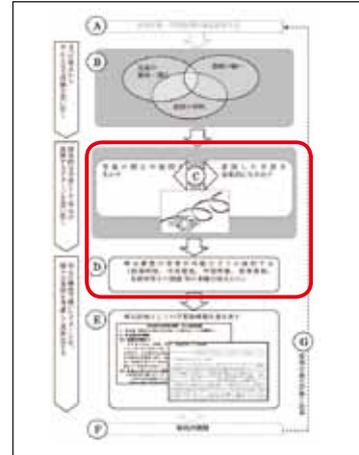
- 染めてみて感じたことや思ったことを、自分のことばで表現させるようにしよう。
- うまくいったところや失敗したところなどを出し合っって、染め方のコツをまとめさせたらどうかな。
- グループごとに調べたことを、分かりやすくまとめさせるようにしよう。写真を入れて時系列に、数値があればグラフにまとめさせよう。

まとめ・表現では

- 調べてまとめたものや、作ったものを職人さんに見てもらって、もっと上手な作り方を教えてもらおう。そのかかわりを通して、新たな課題を見つけさせよう。
- 次の小単元でもう一度染めさせるようにして、職人さんのこだわりや思いを実感させたいな。そうすれば、以前に作ったものと比較させて違いを整理できるね。

第2小単元「捺染ぞめの職人をめざそう」では、児童が本格的な捺染ぞめに取り組む活動を中心にしていこう。
 第3小単元「捺染ぞめを伝えよう」では、捺染ぞめの良さを、地域の人に伝える活動を中心にしていこう。

P87に示した図「単元計画作成の手順チャート」のC・D



多様な方法による情報の収集

職人さんへのインタビュー、染めの体験、インターネットや文献など、多様な情報を収集することが重要である。

人との出会いは児童の求めが高まったときに機会をつくる

捺染ぞめへの強い思いをもち、繰り返し関わられる地域の捺染工場の方と事前に連絡をとり、協力を依頼する。

思考力・判断力・表現力を育てる

集めた情報を、KJ法的手法やウェビング等を用いて、比較・分類・関連付け等を行い、情報の整理・分析を行う。

次の小単元への課題意識を高めるようなまとめを行う

職人さんとの意見交流を通して、「捺染ぞめをもっと上手に作りたい」などといった課題意識をもたせ、次の章単元へとつなげる。

4. 単元計画を具体的に書き表す

単元の構想で描いたイメージを、様々な条件を考慮して具体化する。

P87 に示した図「単元計画作成の手順チャート」のD・E

総合的な学習の時間 単元指導計画

1. 単元名「捺染ぞめで自分たちの手ぬぐいを染めよう」(50 時間扱い)

2. 単元設定の理由

(1) 児童の実態から

児童たちは、前期、手ぬぐいについての調査や体験活動を行った。古くから日本で用いられてきたことや、様々な用途があることを知り、その便利さに感心していた。また、手ぬぐいを集めると、その柄が大変豊富であり、染めへの興味を高めた。多くが「捺染ぞめ」という染めであったことから、「自分たちでも捺染ぞめをしてみたい。手ぬぐいを染めてみたい。」という思いが高まり、本単元を設定した。

(2) 本単元で身に付けたい資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

・捺染ぞめを実現するために解決すべき課題を明らかにし、必要な技術や実現の可能性を関連付けながら、実現に向けて追究する。

【自分自身に関すること】

・捺染ぞめの現状や、そこにかかわる人の思いを受け止め、自分でできることを考えて実践する。

【他者や社会とのかかわりに関すること】

・友達と協力して活動したり、伝統を守る人の思いや願いを理解して、伝統を守るためにすべきことを考えたりする。

(3) 教材について

捺染ぞめは、地域に伝わる伝統技術である。世界的にも高い技術であることで知られているが、後継者問題、機械化などの影響で、工場は減少を続け、衰退の一途をたどっている。学校の裏に流れる川は、毎日染料で違う色で染まっていたとされるほど身近でありながら、現在、捺染ぞめについて知る人は少ないのが現状である。

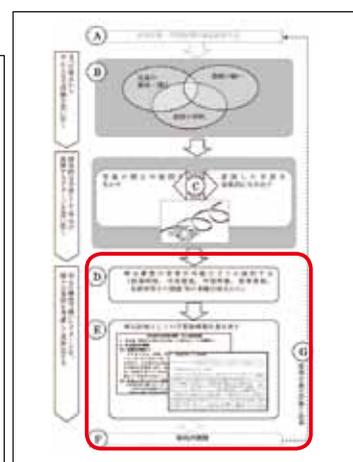
捺染ぞめを扱うことは、地域の伝統や文化の特徴を知ることにつながる。また、染めの体験を通して、先人の知恵を学び、地域の一員であることを真剣に考えることにもつながる。

3. 単元目標

捺染ぞめにかかわる活動を通して、地域の伝統技術や、伝統を守る人々の思いを知るとともに、それを大切にし、自分でできることを実践することができる。

4. 単元の評価規準

	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会に関すること
評価規準	①捺染ぞめを実現するために解決すべき課題を明らかにしている。 ②捺染ぞめを実現するために必要な情報を集め、整理・比較・関連付けて考えている。	①手ぬぐいづくりに向けて、自分でできることや得意なことを生かして進んで取り組んでいる。 ②捺染ぞめにかかわる人の思いを受け止め、自分でできる行動や活動に進んで取り組んでいる。	①友達の良さや違いを受け入れ、協力して調査や体験を行ったりしている。 ②域に伝統技術が残っていることや、伝統技術を守る人の思いを知り、進んでかかわろうとしている。



全体計画にある「資質や能力及び態度」と「内容」を踏まえ、この単元の独自性や重点が見えるよう、全体計画より具体的に書く。

単元の目標は、箇条書きで複数個示す方法もある。

5. 指導計画 (50 時間)

	主な活動	時間数	指導のポイント等
捺染ぞめに出会おう (15)	○職人に話を聞くなどして、捺染ぞめを知る。 ○捺染ぞめを行うための学習計画を立てる	3	・捺染ぞめに出会う場として、職人さんを招く ・染めるために必要な情報は何かを考える
	○自分たちで染めるために必要な情報を集める。	6	・色々な調査方法を知る。 ・K J法やウェビングなどで情報整理をする。
	○試しの染めを行い、職人の作品と比較する。	4	・体験で感じたことを文に書いて残すようにする。
	○体験を振り返り、次への課題をもつ。	2	・職人さんに作品を見てもらう場をもつ。
	○自分たちだけの手ぬぐいづくりに向けて学習計画を立てる	2	・試しの染めと職人さんの言葉をもとに考える。
捺染ぞめの職人を目指そう (20)	○工場の見学や職人さんの話などの情報を集める。 ○デザインを決め準備を行う。	10	・生まれた課題解決に向けた情報の収集を行う。
	○捺染ぞめで手ぬぐいを染める。	6	・1回目と比較して、成長を感じられるようにする。
	○体験を振り返り、次の活動への思いを高める	2	・職人さんの思いを聴く機会をもつ。
	○捺染ぞめやその良さを伝えるための学習計画を立てる	2	・これまでの体験や職人さんの言葉をもとに考える
捺染ぞめを伝えよう (15)	○伝える内容と方法を決め、これまでの体験や調査内容を目的に合わせて再構成する	8	・これまでに得た情報を生かす
	○学校での発表の機会など使って、地域の方やお世話になった方に伝える	3	・捺染ぞめの内容と自分たちが学んだことの両方を伝えるようにする
	○これまでの体験と自分が学んだことを振り返る。	2	・単元を通して学習を振り返る

年間計画と照らし合わせながら、探究的な学習となるように、具体的に描く。

児童の思いや意識の流れを予想して記述し、児童が自ら探究活動を進めるイメージをもって学習活動のまとまりを示す。

「身に付けたい資質や能力及び態度」や「学習対象学習事項」と照らし合わせ、どのような児童の姿を期待したいかを考えて具体的に記述する。

事例① 単元名：第3学年「人形劇で交流の輪を広げよう」（70時間扱い）

年間指導計画

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
単元	お客さんに見てもらえる人形劇をしよう(28時間)			デイケアのお年寄りと交流しよう(25時間)			人形劇で保育園児を喜ばせよう(17時間)					

単元成立の経緯

2年生の国語科で挑戦したスイミーの劇化が心に残っている児童は、4月の話し合いで、3年生の総合的な学習の時間ではクラスで人形劇に取り組みたいとの願いで一致した。担任は、いずれ児童たちの願いが誰かに見てもらいたい、人を喜ばせたいという方向に展開すると予測し、生活科で何度か交流したお年寄りや保育園児とのかかわりを一層深めるよう働きかけることで、福祉にかかわる学びが実現できると判断し、この単元を構想した。

単元の目標

- お年寄りや保育園児との交流を通して、相手の立場に立って気持ちを考えることの大切さを知り、相互の違いを超えて通じ合える、分かり合えることの素晴らしさと難しさに気付く。
- 地域には互いに助け合って暮らすための社会的な仕組みや施設があることを知るとともに、そこで働く人たちの存在とその思いや願いに関心をもち、かかわりを深めようとする。
- 人形劇にかける仲間の思いやこだわりに気付き、意見の違いを互いに歩み寄って調整し合いながら、協同してよりよい劇を生み出そうとする。

単元の展開

学習活動	指導上の留意点
お客さんに見てもらえる人形劇をしよう(28時間) 1 総合で取り組む活動について話し合う 2 人形劇で演じる作品について相談する 3 人形劇を教えてくれる地域の人を探す 4 大学の人形劇サークルにお手紙を書いて指導をお願いする(国語科との関連的な指導) 5 大学生に人形劇を見せてもらう 6 大学生から人形劇について教わる 7 人形劇の練習をする ※昼休みも使う 8 保護者参観日に発表会をする	<ul style="list-style-type: none"> ・学級文庫を充実させておく ・採択教科書以外の国語科の教科書も準備する ・先々で公演に出かけられるような本格的な人形劇にしようと提案する ・児童による依頼に先立って、人形劇サークルの大学生と打ち合わせをしておく ・人形劇に必要なものを工夫してつくる中で、ものづくりの面白さや深みに気付けるよう配慮する ・自分たちの演技を客観的に見つめることができるよう、ビデオを準備する
デイケアのお年寄りと交流しよう(25時間) 1 2学期の活動計画を立てる 2 デイケアを訪ねて様子を知る 3 デイケアでの公演の計画を立てる 4 デイケアの人に来ていただき、公演の打ち合わせをする 5 デイケアで第1回の人形劇公演をする 6 公演を振り返り、問題点を話し合う 7 第2回の公演の計画を立てる 8 第2回の公演をする 9 2学期の活動を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生に、人形劇を仲立ちとして様々な人と交流できる楽しさを話してもらう ・自分たちの満足だけでなく、見てもらう相手の視点に立って考えるよう支援する ・デイケアを利用するお年寄りに加えて、働いている人やその思いにも注目させる ・地域の他の老人福祉施設も調べさせる ・公演の様子は2回ともビデオに撮り、振り返りや成長を確かめる材料とする ・公演には大学生にも参加してもらい、助言をもらえるようにする

※3学期の「人形劇で保育園児を喜ばせよう(17時間)」へと続く

事例② 単元名：第6学年「心をひかれた人に会いに行こう」（27時間扱い）

年間指導計画

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
単元	自分史を書こう (25時間)			心をひかれた人に会い に行こう(27時間)					ボランティア をしよう(18時間)			

単元の概要

自分のこれまでの歩みを振り返り、ストーリーとして綴った「自分史を書こう」の学習を受け、本単元では、現在の自分に何らかの影響を与えている人や、将来とのかかわりにおいて会ってみたい人など、心ひかれる人と実際に交流し、さらにその経験を相互に交流することで、現在の自分に自信をもつとともに、進路も含めた今後の自分の生き方について考えを深める機会となるよう構想した。

単元の目標

- 心をひかれた人の生き方を通して、自分らしい心豊かな人生を送るには、夢や希望をもつこと、誠実に努力すること、他人を思いやり協同することが大切であることに気付く。
- 学級や学年の友達がそれぞれにかけがえのない夢や価値観をもっていることを知り、お互いに深い関心を持ち、尊重しあうとともに、相手の立場になって助言や感想を言えるようにする。
- 話し手の意図をとらえながら話を聞くとともに、自分の経験や意見と比べるなどして適切な質問をすることで、さらに自分の関心事に関連のある経験や考えを聞くことができる。

(国語科の内容A(1)エとの関連的な指導)

単元の展開

学習活動	指導上の留意点
自分について考える(3時間) 1 「自分史」の学習を振り返る 2 自己分析をする	<ul style="list-style-type: none"> ・得意なこと、好きなこと、これからやってみたいこと、将来の夢などを書き出すよう支援する ・教師から見たよさ等も伝えて自信をもたせる
訪問の計画を立てよう(6時間) 1 心をひかれた人に会って話をうかがうことを知る 2 会いに行く人を見付ける 3 訪問のお願いをする 4 訪問の準備をする	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問については、教師から提案する ・人選が興味本位や思いつきにならないよう、理由や必然性をしっかり考えさせる ・対象は学区を中心に町内を基本とする ・教師から事前に相手に打診をするが、依頼は児童が直接行う
訪問して話をうかがおう(10時間) 1 訪問して話をうかがう 2 振り返ってまとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・質問事項を用意させる(これまでの生き方、心に残っている出来事、打ち込んできたこと、好きな言葉、自分の人生に大きな影響を及ぼしたものやことなど) ・行き帰りの安全に十分配慮させる ・会う前と会った後での心の変化に注目させる
報告会を開こう(8時間) 1 報告の準備をする 2 報告会を開く 3 報告会の感想を書く	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトを使って報告させる ・ポイントを絞る方が効果的であることに気付かせる ・1時間の報告人数を抑え、十分な討論時間を確保する ・訪問相手が異なっても、似たような学びがあることに気付かせる ・友達の報告へのコメントは、内容に関わるものが中心となるよう支援する

事例③ 学年テーマ名 第4学年「世界と日本のお米料理を食べ比べよう」(50時間扱い)

年間指導計画

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
単元	<div style="text-align: center;"> <p>おいしいお米をつくろう (20時間)</p> <p>「世界と日本のお米料理を食べ比べよう」</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; background-color: #e0f0ff;"> <p>日本米とタイ米を食べ比べよう (17時間)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; background-color: #e0f0ff;"> <p>世界のお米料理に挑戦しよう (15時間)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; background-color: #e0f0ff;"> <p>日本全国お雑煮マップをつくろう (18時間)</p> </div> </div>											

単元設定の理由

児童は、3年生の時に高齢者や年少者と交流した経験を通して、自分とは異なる存在に強い関心をもち始めている。そこで4年生では、地域の農家に教わりながら自分たちで主体的に進める米づくり学習と絡めて、世界の食文化について探究するとともに、地域に住む外国人と交流する学習活動を計画した。加えて、3学期にはお雑煮を教材として、日本国内における伝統や文化の多様性についても探究する。

学習活動を通して、世界や日本には多様な伝統や文化があり、そのすべてによさやかけがえのなさがあることに気付くとともに、それらを大切にしようとする児童を育成したいと考え、本単元を構想した。

単元の目標

- 世界と日本のお米料理の食べ比べや地域に暮らす外国人との交流を通して、日本も含めたそれぞれの国の伝統や文化のよさ、かけがえのなさに気づき、大切にしようとする。
- 食文化が、気候や風土、植生などの自然条件と密接な関係にあることを知り、自然と共生して暮らすことのよさ、それを実現してきた人々の知恵の素晴らしさに気付く。
- 調査結果を適切に比較することで、情報から意味のある結論を導けることに気付く。

単元の展開

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価標準	<p>①世界の国々と日本各地の伝統や文化に関心を持ち、その背景を知ろうとしている。</p> <p>②先入観や偏見をもたず、共感的な態度で異文化への理解を深めようとしている。</p>	<p>①すべての伝統や文化には、よさやかけがえのなさがあることに気づき、大切にしている。</p> <p>②自然と共生して暮らすことのよさ、それを実現してきた人々の知恵の素晴らしさについて考えている。</p>	<p>①調査結果を適切に比較し、情報から意味のある結論を導いている。</p>	<p>①世界の国々や日本の各地域には、様々な異なる伝統や文化があることを知っている。</p> <p>②食文化が、気候や風土、植生などの自然条件と密接な関係にあることを理解している。</p>

単元の展開

学習活動	指導上の留意点	関連する各教科等
<p>日本米とタイ米を食べ比べよう (17時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日本米 (ジャポニカ米) とタイ米 (インディカ米) を比較する 2 日本米とタイ米を炊いて食べ比べる 3 タイ米の栽培地域の気候、自然、人々の生活、文化等について調べる 4 カオ・パット (タイ風チャーハン) の作り方を調べる 5 留学生会館のことを知る 6 タイからの留学生と交流する 7 留学生にも教わりながら、カオ・パットと日本米を使ったチャーハンを作り、食べ比べる 8 日本米とタイ米について経験したことや調べたこと、留学生との交流の中で考えたことを各自でレポートにまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・米づくりを前に高まっている米そのものへの関心を一層高める契機とする ・タイ米ではおにぎりやうまみできない経験から、適した食べ方や調理法があるのではないかとの見通しを持たせ、問題解決の糸口として栽培地域に目を向けさせる ・タイの人と知り合いたいという機運の高まりを見定め、留学生会館のことを話題に出す ・交流の交渉は児童が行う ・食材に適した食べ方や調理法、食事マナーの発見から、文化の違いが優劣ではないことに気付かせる ・比較の有効性に気づき、適切に行えるよう指導する 	<p>国語B (1) ウ、オ</p>
<p>世界のお米料理に挑戦しよう (15時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 世界のお米料理について教えてくれる外国の人を探す 2 外国の人に来てもらい、その国のお米料理や生活の様子について話を聞く 3 教えてもらった外国の米料理の他、その国の自然や文化等について、グループで調べる 4 外国の人にも来てもらい、自分たちがつくったお米と一緒に料理をつくり、パーティーをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・米の収穫を前に、米をどんな風に食べたいか考える中で、世界の米料理へと意識を向かわせる ・交流相手は以下の方法で探す <ol style="list-style-type: none"> ①1学期に交流した留学生の紹介 ②地域の外国料理店で働く人 ③保護者の友人・知人 ・調理実習では保護者の協力も得、交流活動にも参加してもらう ・パーティーは、その国の食事マナー等、調べたことの発表の場ともする ・お世話になった農家の人も招く ・調理や試食では優劣ではなく、その料理ならではの価値に気付けるよう留意する 	<p>国語A (1) エ</p>
<p>日本全国お雑煮マップをつくらう (18時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 田んぼでつくった餅米を使って餅つきをする 2 お世話になった農家の方を招いて、お雑煮パーティーをする 3 各自のお雑煮体験を話し合う 4 我が家のお雑煮のルーツを調べる 5 日本地図上に各地域のお雑煮の特徴 (材料、味付け、調理法、餅の形等) をまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・パーティーでつくるお雑煮は、農家に教わった地域の伝統的な材料や味付けにする ・社会科の都道府県の学習と関連付けて指導する ・壁面に日本地図を貼り、周囲に調べてきたことを順次掲示していく ・我が家のお雑煮ルーツから出てこなかった都道府県については、資料 (インターネット等) で調べる ・同じ県内でも地域によって違いがあることにも注目させる 	<p>社会 (5) イ 社会 (6) ア</p>